

## D-1 考察

### ■真っ白な気持ちで作品を鑑賞する・・・ [情報の取り出し]

○直観的に見る。(=予備知識や先入観をもたないで見る。)

#### 葛飾北斎を知っているかという質問について

知っている(81.2%)、知らないまたは無回答(18.8%)。

(知っていると答えた人に)何を知っていましたか？

- ・浮世絵(複数回答) ・錦絵(複数回答) ・版画(複数回答)
- ・「富嶽三十六景」(複数回答) ・富士山の絵(複数回答)
- ・歴史上の人(複数回答) ・江戸時代の人(複数回答) ・有名な画工

社会の授業で習ったという理由からか、名前くらいは知っているという生徒が多かった。

錦絵・浮世絵という言葉が予想以上に出たうえに、「富嶽三十六景」を知っている生徒もいた。

「山下白雨」を提示して、作品を見た感想を聞いた。

#### 「山下白雨」を見て思ったこと・感じたこと

- ・青い富士山ではなく、赤茶色 ・ひび割れのようなものがある ・火山の噴火？
- ・雷～赤い雷？ ・雲がたなびいている ・雪をかぶっている

初めて見たという生徒が多く、反応はストレートで新鮮であった。

雷の表現について推測した生徒は少なく、表面に描かれたものを見て、形を素直に言っただけという感が強かった。

### ■感じたこと・推測したことなどを造形言語を使って表す・・・ [解釈]

○主題、構図、色、形、技法等に注目して造形的表現を用いて表す。

#### 「凱風快晴」を見て思ったこと・感じたこと(ワークシートより)

ポイント	感 想 の 表 現
主題	・富士山
構図	・富士山が右寄り→空が広く見える ・空と富士山の面積が半々くらい ・対角線構図になっている ・下方に広がっているので大きく見える ・シンプルな構成
色	・青と赤の対比 ・茶、赤、青緑の変化 ・色の濃さの変化～グラデーション
形	・雲がたくさんある ・山の上がすぼまっている ・三角形で構成されて見える
技法	・どちらの作品も多版多色摺り ・摺り方について <初摺り> 色が少しずつ変化していることで画面が立体的に見える 地味だが色に深みがある <後摺り> 色が鮮やかではっきり変化している 色彩は後摺りのほうが写真に近い

「山下白雨」の鑑賞時には見られなかった造形言語を用いた表現が「凱風快晴」の鑑賞時に見られた。見るポイントを明示して表現する活動によって、言葉による表現に明らかな変化が見られた。

## ■友だちとの意見交流や作品解説から情報を得る・・・ [解釈]

- 友だちの感じ取り方から共感を得たり、違う視点から新しい発見をしたりする。
- 作品解説から自分の解釈との相違に気づき、新しい知識を獲得する。



### グループ活動から

個人でワークシートに記入した後、グループで意見交流を行った。個人で感じ取ったことをグループ内で広め、共感を得たり、友だちの新しい発見に感心したりしていた。

また、配布した作品解説をテキストとして読み取り、その内容をもとに意見交流を行っていた。

## ■他から得た情報を統合して判断し作品を味わう・・・ [熟考・評価]

- 自分の感じ取ったことや解釈に加えて、他から得た情報を統合して作品を味わう。

### ◇板書の展開



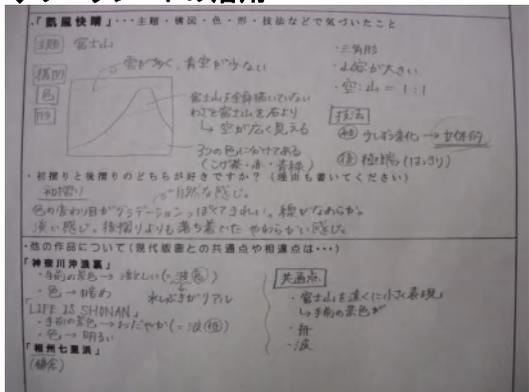
板書: 初めの段階



板書: 終わりの段階

各グループから様々な意見が寄せられた。板書を見て、さらに補足したいことを個人から聞き取り、書き足していった。

### ◇ワークシートの活用



配布されたワークシートは、初めは自分の感想や意見だけだが、次第に新しく得た情報が書き込まれていく。

「凱風快晴」では初摺りの人気が高く、色の変化がグラデーションになっていてきれいであるからという理由が多かった。後摺りは鮮やかできれいだが、初摺りのほうが深みがあって落ち着いていて好きという感想が多かった。

書き込まれたワークシート

## ■鈴木英人作品との比較 ～「神奈川沖浪裏」と「LIFE IS SHONAN」～

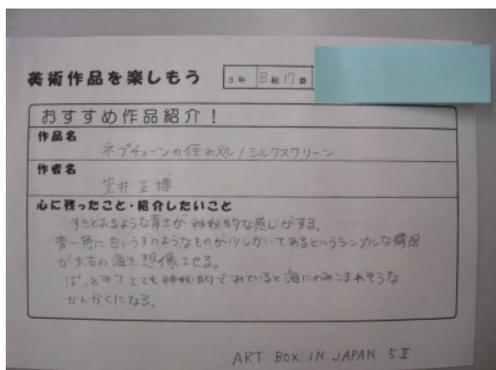
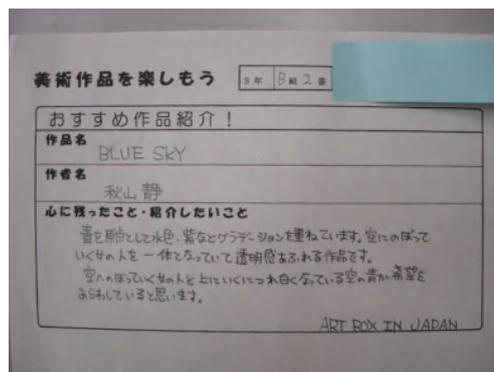
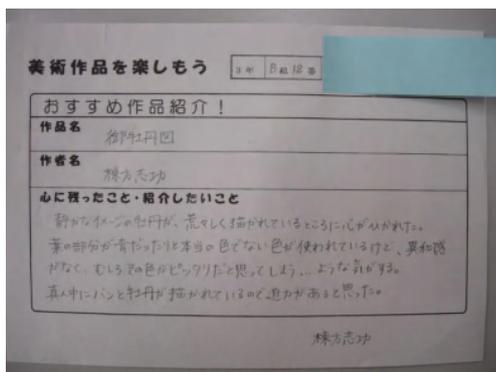
### 共通点と相違点

	神奈川沖浪裏	LIFE IS SHONAN
共通点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山が奥に描かれている</li> <li>・舟がいる（昔の舟とヨット）</li> <li>・人がいる（漕ぎ手と操り手） ～ 富士山・波・舟が主題</li> <li>・波の表現が特徴的</li> <li>・黒の輪郭線がある</li> <li>・遠近法を使っている</li> <li>・空にグラデーションが使っている</li> </ul>	
相違点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波が高く激しい（強調されている）</li> <li>・色がやや暗め</li> <li>・色数が少ない</li> <li>・青と白が基調</li> <li>・富士山が小さめ</li> <li>・視点が遠く、低い位置</li> <li>・構図が左に密度が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波はやや高い（リアルに表現されている）</li> <li>・色が明るい・鮮やか</li> <li>・色数が多い</li> <li>・青、黄、緑、白</li> <li>・富士山が大きめ</li> <li>・視点が近く、高い位置</li> <li>・構図が右に密度が高い</li> </ul>

2作品に共通している主題は富士山・波・舟である。しかし、色づかいや構図はかなり異なる。それでも受ける印象に近いものを感じるのは、やはり富士山という日本人の原風景ともいべき山を中心に据えて描かれているからではないだろうか。

### ■作品集の鑑賞

版画作品を掲載している書籍を集め、自分の気に入った作品を選び、心に残ったことや紹介したいことを作品カードにして、その書籍にはさんで置いて友だちに見てもらおうという活動を行った。



前時の活動により、生徒の紹介文にも造形言語による表現が多く見られた。特に色の変化や構図に関する表記が目立ったが、このような活動を継続することによって意識も育っていくと感じた。